

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】（中学校用）

都道府県名

大阪府

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	岸和田市立桜台中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	4	5	4	1	14	32
生徒数	140	179	158	3	480	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人ひとりの確かな基礎学力の定着を図る  
 - 少人数授業における効果的な指導法について -

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

1年生・数学

小学校と中学校との進度・内容ともに段差が大きく、また個人差も大きくなるので、個に応じた学習を支援するため。

1年生・英語

中学校で初めて学習する教科なので、基礎学力を定着させ、上級学年になっても自己学習できる力と意欲を持たせるため。

2年生・英語

より基礎学力を定着させるとともに、英語の楽しさやコミュニケーションの重要性を理解させるため。

3年生・数学

個人個人の学力差が顕著となる学年であるので、個々の生徒に対応し、意欲を向上させたい。

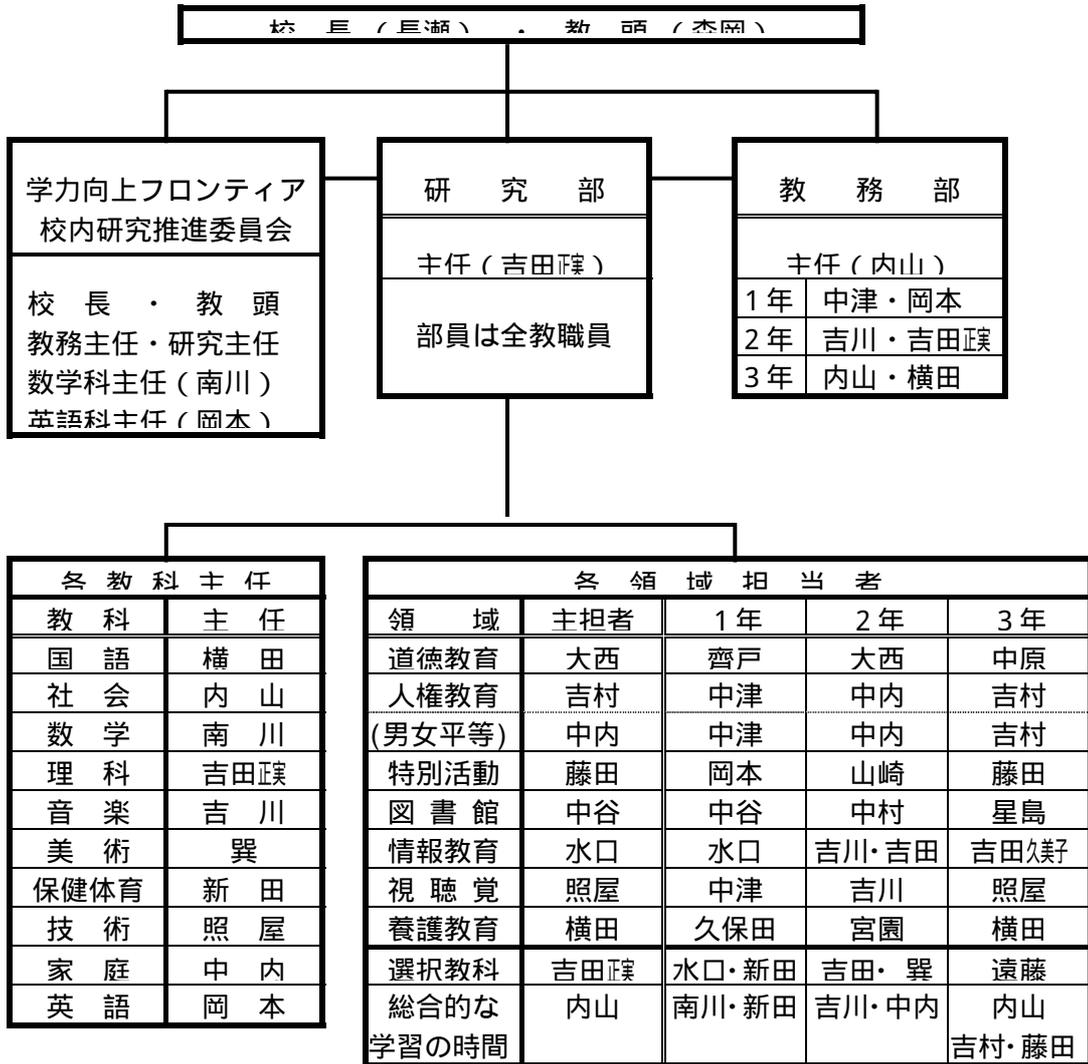
(2) 年次ごとの計画

平成14年度	テーマ 研究の見通し（仮説） 研究の内容・方法
--------	-------------------------------

平成15年度	テーマ 生徒一人ひとりの確かな基礎学力の定着を図る 研究の見通し 少人数授業を行うことにより、生徒一人ひとりへのきめ細かい指導が徹底でき、基礎学力の定着が図れ生きる力の育成につながる。 研究の内容・方法 ・効果的な指導を行うために、少人数編成のあり方と教科の単元との関連について研究を進める。 ・生徒の興味関心を高めるための教材研究を進める。 ・評価のあり方についての研修を深める。 ・少人数担当者会、研究推進委員会、学年会、研究全体会等を通じて、研究の進め方についての共通理解を図る。 ・授業参観等での保護者への公開を進める。 ・小学校と密接に連絡を取り合いながら、連携を進めていく。
--------	---

平成16年度	テーマ 少人数授業における効果的な指導法を探求する 研究の見通し 昨年度の反省に基づき、より効果的な少人数指導の方法を見出し、授業実践によって生徒の自己学習能力を高めることができる。 研究の内容・方法 ・効果的な指導を行うために、少人数編成のあり方と教科の単元との関連について研究を進める。 ・生徒の興味関心を高めるための教材研究を進めるとともに、実践に取り組む。 ・評価についての研究を推進する。 ・少人数担当者会、研究推進委員会、学年会、研究全体会等を通じて、研究をさらに進める。 ・地域や保護者等に対して授業を定期的に公開する。
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1. 研究の成果

- ・生徒一人一人が自己の学力を客観的に見つめることができるようになった。
- ・数学でのアンケート調査によると、生徒たちが学習に対して前向きに取り組んでいる様子が伺えた。
- ・英語では、コミュニケーション活動に積極的に参加し、楽しみながら学習できていた。

## 2. 今後の課題

- ・少人数編制つまりクラス分割の方法についての検討が必要である。数学科では、習熟度別の指導が効果的だと考えているが、生徒の希望と教師側の思惑との間にズレがあって、これをどう解消するかが今後の検討課題である。また、英語科では、コミュニケーション重視のカリキュラムのため、習熟度別より均等割の方が、生徒が明るく伸び伸びできるという意見が多い。
- ・少人数指導の運用方法を検討する必要がある。教科の特性によって様々な指導形態があると思われるが、少人数指導の時期を固定せず、教科の単元や指導内容により少人数指導を柔軟に実施していくという方法もあるのではないか。また、少人数指導とTTとをうまく組み合わせていくなど、運用面での工夫を今後検討していく必要がある。
- ・児童・生徒ならびに教師どうしの「小中連携」を進めることが大切である。「すこやかネット桜台」の活動として、昨年11月26日に、校区内の2つの小学校6年生と本校の1年生及び保護者を対象に『車椅子ダンス』の講演会を実施した。小学校6年生の体験入学だけでなく、このような機会を生かしての児童・生徒の連携をより深めていきたい。また、教科指導の連携を進めるため、小学校の研究授業に中学校の教師が参加したり、小学校の先生に中学校の授業を参観してもらったりという取り組みも、今年度から始めたが、今後ともこうした活動を通して、小学校と中学校の間の垣根を少しずつ低くしていきたいと考えている。

## 学力把握のための学校としての取組

- ペーパーテスト...生徒の基礎学力の定着度及び応用力を調べるため。
- ・定期テスト...年間5回(5月, 7月, 10月, 12月, 3月<3年は1月>)
- ・学力診断テスト... 1・2年は1回(1月)  
3年は5回(5月, 9月, 10月, 11月, 1月)
- ・宿題テスト... 1・2年は2回(9月, 1月)
- ・小テスト ... 各教科で、随時行っている。

### アンケート調査

生徒の自己診断力や学習意欲、これからの希望などを調査するために行った。  
(1年生・数学で10月と1月)

個人面談...学校生活での悩みや友人関係、学習面でのつまづきなどを聞く。  
主として学級担任が行い、各学期中に生徒本人と1回、各学期末に保護者を交えて1回行う。それ以外にも、学級担任や教科担任が気になる生徒と随時行っている。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

平成16年2月10日に常盤小学校と共同して、本校において「泉北・泉南地区 学力向上推進協議会」を開催した。この時の取り組みとしては、次の通りである。

- 小学校と中学校の同時公開授業 ... 教育関係者及び保護者対象
- ・ 小学校5年生・算数の少人数指導およびT T指導
  - ・ 小学校3年生・英語活動でのT T指導（小中連携）
  - ・ 中学校1年生・数学の少人数指導
  - ・ 中学校1年生・英語の少人数指導

研究協議会

- ・ 常盤小学校と桜台中学校の研究発表
- ・ 質疑応答
- ・ 指導助言 ... 西川 信廣 先生（大谷女子大学教授）

研究報告用の冊子作成 ... 常盤小学校と本校とが共同して作成した。

平成16年度においても、研究冊子もしくは研究発表会等によって、普及に努める予定である。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T・Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	